

地方創生に関する若者座談会の報告

■日時

令和7年7月16日（水）午後2時00分～午後3時30分

■場所

浜松市役所本庁舎8階802会議室

■目的

- ・大学生が、人口減少の現状や地方創生の重要性について理解を深めるとともに、まちの持続可能性について考えるきっかけとする。
- ・複数の大学の学生同士が意見交換を通じて、交流を深める機会とする。
- ・若い世代の現状や意識をとらえ、市が地方創生を推進するにあたっての参考とする。

■参加者

市内大学に通う大学生21名

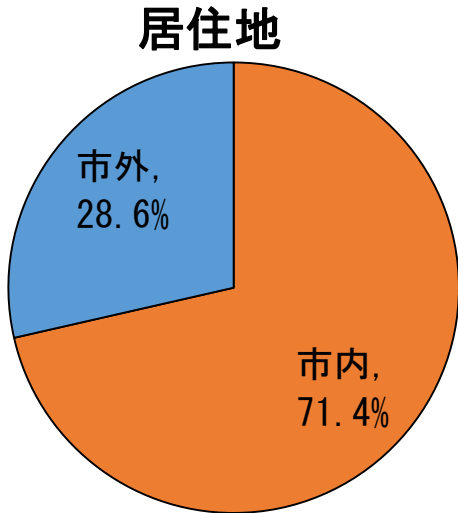
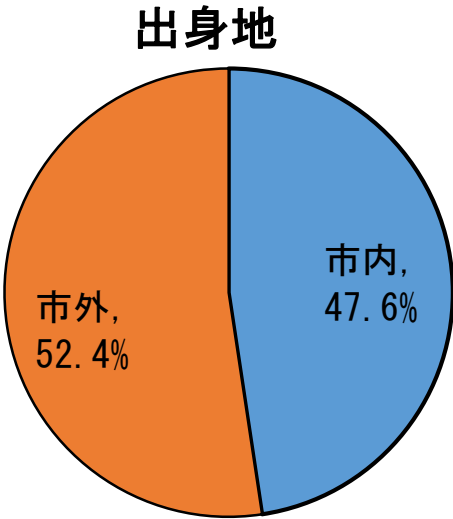
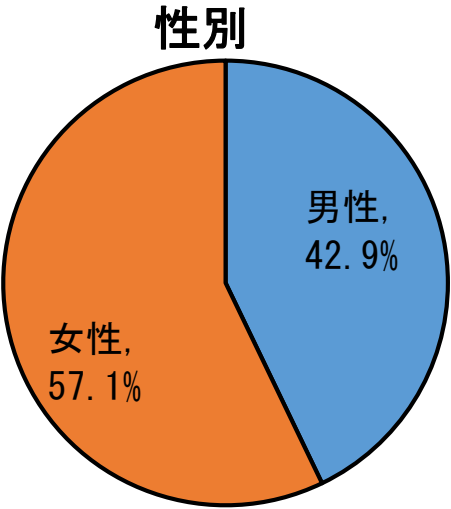
■方法

- ・複数グループに分かれ、浜松市の人口減少の現状、若年層アンケートの結果、浜松市の地方創生の取組などを事前説明。
- ・「①おすすめてできる浜松の魅力とは」と「②あなたは、これからも浜松に住みたいと思いますか」の2議題について、個人意見検討、学生同士のグループ討議、グループごとに出た意見の発表を実施。



■ 参加大学生の内訳

大学名	人数	性別	出身地	居住地
聖隷クリストファー大学	4名	男性2/女性2	市内3/市外1	市内3/市外1
浜松学院大学	4名	男性2/女性2	市内3/市外1	市内3/市外1
静岡文化芸術大学	6名	男性0/女性6	市内2/市外4	市内3/市外3
常葉大学	4名	男性2/女性2	市内2/市外2	市内3/市外1
静岡大学	3名	男性3/女性0	市内0/市外3	市内3/市外0
合計	21名	男性9/女性12	市内10/市外11	市内15/市外6



議題 1 「おすすめてできる浜松の魅力とは」



【ほかの人におすすめできる浜松の魅力はなんだと思うか。】

(全81意見)

分類項目	主な意見
自然環境・生活環境が整っている (43意見)	駅近は栄えているが、海と山の方は自然が多く、気分転換ができる
	沿岸地域の防潮堤・水門などの防災への取り組みが進んでいて安心できる
	イオンモールやコストコなど、ショッピングモールが各地にあり買い物に行きやすい
	浜松ぎょうざ、うなぎなどの美味しいご飯がある
豊富な観光資源 (14意見)	音楽のまちということで、ジャズなどの音楽イベントが駅前広場で開催される
	アニメとのコラボ、ドラマ・映画のロケ地となり、聖地巡礼ができる
	弁天島、中田島砂丘など、観光できる豊かな自然が多い
交通の便が良い (10意見)	名古屋・東京・大阪などの首都の間にあってアクセスがいい
	新幹線・在来線が通っていることで、周辺都市、他県からのアクセスが良い
	浜松駅周辺の飲食店や娯楽施設に行く際にアクセスしやすい
地域との交流 (9意見)	祭りが多く、地域コミュニティの繋がりが強い
	外国人の居住が多く、多文化共生社会ということで、様々な文化・価値観を持つ人々と交流できる
盛んなものづくり (5意見)	他の市と比べて、バイク、楽器など、生産量を誇ることでできる企業がある
	製造業が多い

【ほかの人におすすめてできる浜松の魅力はなんだと思うか。】

■ 若者の意見のポイント ■

- 全意見の半数以上で自然や生活環境を評価している。
- 音楽のまちを活かした音楽イベント、アニメとのコラボや映画ロケ地による聖地巡礼など、個人の趣向にあったイベントに魅力を感じている。
- 大都市や周辺都市へのアクセスなど、都市部への良好な交通アクセスを魅力的と感じている。
- ものづくりのまちとしての認識はある一方で、就職先としての魅力をあまり感じていない。
- 浜松まつりを通じた地域コミュニティのつながりや、多くの外国人市民が暮らす多文化共生社会を魅力と感じている。

議題 1 「おすすめてできる浜松の魅力とは」



【そういった浜松の魅力はどうしたら若者に効果的に伝わるか。】

(全32意見)

分類項目	主な意見
情報発信 (16意見)	旅行に行く際には、その地域の飲食店のSNSを調べてから行くので、飲食店の情報をSNSに載せる
	市内に住んでいるインスタグラマーがおしゃれな暮らしを発信する
	最近の若者は、テレビや新聞ではなくSNSを活用しているので、SNSで発信すればより効果的である
教育機関による地域学習の実施 (8意見)	浜松について知れる授業を大学で実施する
	校外学習等を小・中・高で実施し、自然に触れることで地域の自然を好きになってもらう
体験機会の提供 (5意見)	アーティストやアニメなどの大型イベントを実施し注目を集める
	ハイキングイベントを開催し、自然の中を歩きながら浜松の町中にもふれられる
調査・提案 (3意見)	浜松の海や山はどこが強みなのか、細かい所にフォーカスして、マップ化、深掘り調査をする

【そういった浜松の魅力はどうしたら若者に効果的に伝わるか。】

■ 若者の意見のポイント ■

- 全意見の半数でSNSの活用に言及しており、インフルエンサーを使うなど、SNSを活用した情報発信が効果的だと考えている。
- 小・中・高での校外学習や大学の授業など、教育機関で学ぶことが効果的であると考えている。
- 地域特性を活かしたイベントの開催など、参加者が地域の魅力を実際に体感できる機会の提供が重要だと考えている。

議題2 「あなたは、これからも浜松に住みたいと思いますか」

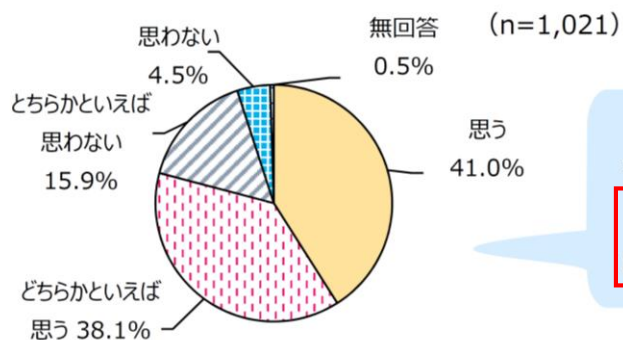


- ✓ 令和6年度「若年層アンケート」において、「あなたは、これからも浜松に住みたいと思いますか。」の設問に対し、約2割の若者が「思わない」と回答した。その理由の上位3つとして、「都会に住みたいから」「希望する就職先がないから」「休日などに遊ぶ場所が充実していないから」が挙げられた。
- ✓ 若者が実際に浜松に住みたいと思わない理由の具体的な内容をとらえるとともに、若者に住みたいと思ってもらえる方法について議論した。

問

あなたは、これからも浜松に住みたいと思いますか。

※現在市外に住んでいる方や、今後進学などで市外へ出られる予定の方は、将来、浜松に戻ってきたいと思うか回答してください。

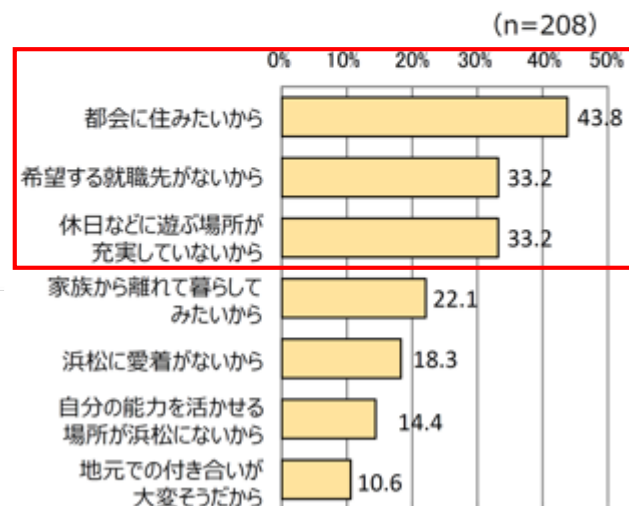


「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた《思う》は79.1%、
「どちらかといえば思わない」と「思わない」を合わせた《思わない》は20.4%。

問

浜松に住みたいと思わない理由を教えてください。

「都会に住みたいから」が43.8%。



※複数回答 上位7項目

議題2 「あなたは、これからも浜松に住みたいと思いますか」



【アンケートの3回答の「住みたいと思わない理由」の具体的な中身は何だと思うか。】

(全66意見)

分類項目	主な意見
「休日などに遊ぶ場所が充実していないから」の理由 (37意見)	車社会なので車が無いと移動のハードルが高い
	駅からのアクセスは良いが、各観光施設をつなぐ交通網が少なく、交通手段が偏っている
	娯楽施設が中心部に偏っているため、市内に住んでいると遊ぶ場所が固定化され飽きやすい
	アーティスト向けの大型ライブ会場が市内には不足している。音楽のまちとして大型のライブ会場が必要
「都会に住みたいから」の理由 (15意見)	都会に出て一人暮らしをしてみたい
	日本初上陸のブランド店など大都市にしかない店がある
	SNSを通じて、目に見える都会でキラキラした生活をしたと思ったから
「希望する就職先がないから」の理由 (14意見)	有名企業はものづくり系が多く、情報系に行きたい人には魅力的ではない
	全国的に知名度のある大企業が少ない
	市内には商社やコンサル、人材等キラキラしたイメージの企業が少ない

【アンケートの3回答の「住みたいと思わない理由」の具体的な中身は何だと思うか。】

■ 若者の意見のポイント ■

- 「都会に住みたいから」という回答が多かったことに対して
都会への憧れや都会にしかない経験を求めている。
- 「希望する就職先がないから」という回答が多かったことに対して
地域企業はものづくり系が多く、若者に知名度のある大企業や職種が少ないと感じている。
- 「休日などに遊ぶ場所が充実していないから」という回答が多かったことに対して
全意見の半数以上で、遊ぶ場所そのものの不足や場所の偏りに加えて、アクセスする交通手段について不満を感じている。

議題2 「あなたは、これからも浜松に住みたいと思いますか」



【どうしたら浜松に住みたいと思ってもらえるか。】

(全48意見)

分類項目	主な意見
情報の発信 (20意見)	Uターンや子育てなど様々な支援を表向きに分かりやすくする
	学生向け賃貸物件の家賃が安いことをアピール
	地区ごとに、雑貨やカフェなどの特徴あるコミュニティをつくり、その存在を発信する
体験機会を増やす (18意見)	ショッピングモールや駅周辺でのターゲットを絞ったイベント・ライブを増やす
	科学館、博物館、動物園での大きなイベントを開催する
	浜松の企業を中心とした浜松出身者向け就活イベントを名古屋や東京で行う
交通網の整理 (10意見)	バスなどの公共交通機関を強化する
	若い人が車が無くても移動できるように、シャトルバスやレンタル自転車を充実させる

【どうしたら浜松に住みたいと思ってもらえるか】

■ 若者の意見のポイント ■

- 子育て支援や学生向け賃貸物件が安価であることなど、ターゲットを絞って浜松の魅力を効果的に発信することが必要だと考えている。
- ライブイベントや、博物館・動物園での体験イベントの開催などにより、浜松に住むことの魅力を体験できる機会が重要だと考えている。
- 車を持っていない若者でも移動しやすい交通手段の整備や、公共交通機関の強化など、生活のしやすさを向上させることが必要だと考えている。